

令和3年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

6年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	<p>○思考・判断・表現については、概ね80%以上の到達度であるが、筆者の考えを適切に捉えたり、自分の考え表現したりすることに課題が見られる。</p>	<p>○筆者の主張と関係づけて事例の意図をおさえる。 ○主張や事例に関する段落で大切な言葉に線を引かせ、短文でまとめる活動を繰り返し行う。 ○思考ツールを活用し、自分の考えを整理させる。</p>	<p>○筆者がなぜその事例を並べたのか、なぜその順なのか考え、事例の全体像をつかんで説明できる児童が90%以上になった。 ○要旨を捉えることができたが、それに対する考えを表現できる児童と難しい児童と2極化した。</p>
社会	<p>○知識・技能については、概ね90%以上の到達度であるが、知識同士を関連付けて考察することに課題が見られる。</p>	<p>○歴史や国際関係について、全体の流れをおさえる。 ○できるだけ児童に身近なテーマで導入したり、学習したことを生活に生かす方法を考えさせたりする。 ○学習した社会事象の全体での位置付けを理解させる。 ○ふだん意識せずに過ごしている身の回りの事象について社会的な視点で考察させる。</p>	<p>○毎回、歴史や国際関係に関する大きな流れを確認し、時代背景や国同士の関係をつかめるようになった児童が増えた。 ○身の回りの事象を扱うことで、自分の考えをもちやすくなり、多くの児童が課題について考えるようになった。</p>
理科	<p>○知識・技能については、概ね90%以上の到達度であるが、実生活と比較して考えることに課題が見られる。</p>	<p>○日常生活と学習がどのように結びつくのかを考え、多面的に実験について考えるように学習活動を設定する。 ○ニュースの内容や身近な生活の中から実験の内容と結びつけ、児童の意見から実験方法や使用する道具を決め、実践していく。</p>	<p>○実生活ではどのような場面で使われているのかを問うことで、95%以上の児童が知識を活用して思考するようになった。 ○ニュースや身近な生活の中にある科学と関連させることで、多角的に考えるようになった。</p>

<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の課題に粘り強く取り組むことに課題がある。(到達度60%) ○友達の良さや改善点を見付けたり、それを伝えたりすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習資料などで視点を明確に示して、互いの取り組みの良さや改善点を伝えるようにする。 ○段階別に取り組めるような複数の場の設定や個に合った指導をする。 ○兄弟チームやPCを活用し、相手の良さを言葉や動画で伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○互いの取り組みの良さや改善点を意識して次の時間に取り組むようになった児童が70%を超えた。 ○段階別や個別の課題設定によって、自分のペースでじっくり取り組む児童が増えた。
<p>学 習 の 時 間 <small>総合的な</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて情報収集の方法を選ぶことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネットや図書資料、インタビュー活動などの目的やメリットなどを指導する。 ○複数の情報収集の方法を活用できるようにすることで、より新しく正確で有益な情報を集めて、発信することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実際にインタビューを行うことで、インタビューのメリットを実感し、情報収集の一手段としての有効性を体感することができた児童が70%を超えた。 ○より正確な情報を得ようとする意識が高まり、情報の収集方法にも自分たちで考えるようになった児童が80%に増えた。